

## 令和 8 年度外部評価「アウトリーチ」「人材育成」の評価の観点（案）

令和 8 年度に実施する「アウトリーチ」、「人材育成」に関する外部評価について、その評価の観点を下記のとおり定める。評価の観点の各項目は、核融合科学研究所が大学共同利用機関として実施してきた研究等の活動の妥当性と達成度の評価を基本としつつ、令和 3 年度～令和 5 年度に取りまとめられた「今後の核融合科学研究所の在り方についての提言」、「今後の共同研究の在り方についての提言」、「今後の大型研究施設計画の在り方についての提言」に照らした今後の方向性と戦略をも問うものとする。

なお、令和 2 年度と令和 4 年度にそれぞれ実施された「対外協力部」と「人材育成」の外部評価において、報告書に「提言」として示された、次の点も今回の評価の参考とする。

### 【令和 2 年度外部評価における対外協力部に係る提言】

- (1) 核融合研究の重要性と安全性について、児童から社会人にわたる幅広い年齢層に向けて情報発信を今後も継続的にを行うことを期待する。
- (2) 様々な地域交流活動を通じ、引き続き、地域社会・住民との信頼関係を高める活動を実施することを期待する。
- (3) WEB や映像配信など様々な広報手法を取り入れながら、核融合・プラズマに限らない広い意味での科学教育活動を展開するとともに、海外へも視野を向けたコミュニケーション活動の推進を期待する。

### 【令和 4 年度外部評価における人材育成に係る提言】

- (1) 新しい世代を惹きつけるために、研究プラットフォームや学位制度の刷新、優れた研究者による教育水準の向上により、世界最高レベルの研究環境の改善を追求することを提言する。
- (2) 総研大や連携大学院だけでなく、量子科学技術研究開発機構（QST）や ITER 機構と連携して、人材育成に関するより広範なパートナーシップを構築することを提言する。
- (3) ユニットシステムが主導する核融合科学の学際的发展を、上記の核融合エネルギー開発への貢献と合わせて、人材育成に組み込むことを提言する。

## 記

### 1. アウトリーチ

- (1) 研究成果や研究活動の意義を、国内外の学術コミュニティや社会に対して分かりやすく効果的に発信し、核融合科学研究所の認知と理解の向上に取り組んでいるか。
- (2) 施設見学、科学イベント、地域連携活動等を通じて、社会との双方向のコミュニケーションを促進し、核融合科学や研究所に対する理解を深める活動を行っているか。
- (3) 核融合研究に関する史料を適切に収集・整理・保存するとともに、研究・教育・社会連携等に活用できる形で継承・公開する取り組みを進めているか。
- (4) 高等学校等との連携を通じて、核融合科学をはじめとする最先端の科学研究に触れる機会を提供し、次世代の人材育成や科学への関心向上に貢献しているか。
- (5) 大学、QST、J-Fusion、関連学会等との連携のもと、NIFS 内に設置されたアウトリーチヘッドクォーターを中核として、リスクコミュニケーションを含む戦略的かつ一体的なアウトリーチ活動を推進し、フュージョンエネルギーについて国民が主体的に考える機会の充実や、社会との対話の促進に取り組んでいるか。

### 2. 人材育成

- (1) 総合研究大学院大学、連携大学院制度、特別共同利用研究員制度、インターンシップ制度等を通じて、大学と協力し、大学院教育に積極的に取り組んでいるか。また、国内外の大学との様々な連携体制を整備し、より多くの学生を受け入れるための体制を構築しているか。
- (2) 大学共同利用機関として、最先端の研究プラットフォームを含む世界最高レベルの研究環境を、大学院生と若手研究者の育成のために活用しているか。
- (3) ユニット活動による核融合科学の学際的展開を人材育成に活用しているか。
- (4) 若手研究者が主体的に研究を進める体制を構築し、女性研究者を含めた多様な人材の育成に積極的に取り組んでいるか。
- (5) 核融合コミュニティ全体の人材育成を進めるために、QST や ITER 機構とも連携し、大学共同利用機関としての役割を強化して、幅広い分野の研究者や学生に対して世界的な人材育成が行われているか。